

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Genetic and environmental influences on the rate of progression to alcohol dependence in young women. 若年女性におけるアルコール依存の進展率に関する遺伝因、環境因の影響	
執筆者	
Sartor CE, Agrawal A, Lynskey MT, Bucholz KK, Heath AC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2008 Apr;32(4):632-8.	
キーワード	
アルコール消費量、遺伝因、女性、移行、	
要 旨	
<p>背景： アルコール依存(AD)の進展は飲酒行動に関する多段階を通して変遷し、遺伝因と環境因相方の影響によって形づけられる。女性においては3つの顕著な変遷(未使用から開始、開始から最初のアルコール関連問題の発生、最初の問題からADの発生)を通じADに進展するのであるが、その進展率に対する遺伝因、環境因の寄与を特徴づけることによって、この動的な過程をとらえようと試みた。</p> <p>方法： サンプルはMissouri Adolescent Female Twin Studyの3,546人の女性双子から構成された。対象者は18～29歳の範囲であった。アルコール使用歴に関する過去の記録は電話によるインタビューによって収集され、飲酒に関する重大事件の間の期間は順序列でコード化された。標準的な遺伝子解析がMxに対してなされ、遺伝因、環境因について、3つの変遷期間に特有な影響および共通な影響の推定値を提供する3変量モデルが得られた。</p> <p>結果： 遺伝的な影響は3つの変遷全ての間の進展率においてみられた。それは変遷期間における分散の30%から47%に相当した。環境に対する寄与はアルコール不使用から開始(初回の飲酒年齢)に至る進展率でのみ明白であった。飲酒に関する問題に連なる進展率への遺伝の寄与は共通の因子に関連する一方、環境因の影響は各変遷に特有であった。</p> <p>結論： 本研究は、女性サンプルを対象に飲酒問題行動の間の移行率を示し、ADの進展の過程である多段階の移行時間に対する遺伝因の寄与を検討した、遺伝的な情報を含む研究デザインを使用したという点でユニークである。この結果は、定期的な飲酒からADへの進展に関する遺伝因の影響に関する男性における既存の報告を、女性や他のアルコールのステージへの変遷に一般化したものであった。この結果はまた、介入法を開発する際には、段階別にアルコールの環境因への寄与を考える必要があることを示している。</p>	